

# 1 4 水 産

<b>「海 洋 生 物」</b>	単 位 数	3 単 位
	学科・学年・学級	海洋科学科 第3学年A組 海洋バイオ類型

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	水産生物に直接触れさせ、採集、測定、解剖、検鏡、飼育などの基礎的な実験や実習を通して、水産生物の分類、形態、生理及び生態に関する知識や技術を習得させ、水産生物に対する認識を深めさせるとともに、その重要性を理解させ、水産生物の維持、管理など栽培漁業に活用する能力と態度を育てることをねらいとしている。
使用教科書・副教材等	文部科学省「海洋生物」

## 2 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考 査 範 囲
第 1 学 期	3 水産生物の種類 (3)軟体動物 ア 概説 イ 主要軟体動物 ・腹足類	4	貝類とイカ、タコに代表される軟体動物の種類と、基本的な形について理解する。	1学期中間考査は、軟体動物の種類について、腹足類の生理学、アワビ類解剖学的特徴までとする。	第 1 学 期 中 間 考 査
		5	巻き貝が主体の腹足類について、アワビ類、サザエ、バイ類を比較しながら、その特徴を理解する。 アワビ類の解剖学的特徴を理解する。 アワビ類（アワビもしくはトコブシ）の各部測定、解剖実験。観察することにより、形態、生理に関する知識を習得する。		
		6	サザエの解剖学的特徴を理解する。 サザエの各部測定、解剖実験・観察することにより、形態、生理に関する知識を習得する。	1学期期末考査はアワビ類、サザエ、バイ類の解剖学的特徴、解剖実験までとする。	第 1 学 期 期 末 考 査
		7	バイ類の解剖学的特徴を理解する。 バイ類の各部測定、解剖実験・観察することにより、形態、生理に関する知識を習得する。		
<p><b>【課題・提出物等】</b></p> <p>1 アワビ類、サザエ、バイ類の解剖実験のレポートを期末試験までに提出する。</p> <p>2 授業中に作成したノートを学年末考査までに提出する。</p>					
<p><b>【第1学期の評価方法】</b></p> <p>定期試験 70%、出席状況 10%、ノート・レポート 10%、 学習態度（実習も含む） 10%</p>					

第 2 学 期	イ 主要軟体動物 ・二枚貝類	9 二枚貝について、アカガイ・サルボウガイ類、アコヤガイ類、ホタテガイ類、イガイ類、カキ類、シジミガイ類、アサリ類、ハマグリ類、ウバガイ・バカガイ類、フナクイムシ類を比較しながら、その特徴を理解する。 ホタテガイ類の各部測定、解剖実験。観察することにより、形態、生理に関する知識を習得する。	2学期中間考査は、二枚貝についての生理学的特徴までとする。 ※宮崎ミニ水族館での生体展示を行い、水生生物について学んだことの学習発表の場とする。	第2学期中間考査
	・頭足類	10 イガイ類の各部測定、解剖実験。観察することにより、形態、生理に関する知識を習得する。 アサリ類ハマグリ類の各部測定、解剖実験。観察することにより、形態、生理に関する知識を習得する。 11 海藻類（紅藻植物、褐藻植物、緑藻植物、その他）についての特徴を理解する。 貝類、海藻類の採集・観察することにより、生態についての理解を深める。 頭足類について、コウイカ類、ヤリイカ類、スルメイカ類、タコ類を比較しながら、その特徴を理解する。 12 イカ類（コウイカもしくはスルメイカ）の各部測定、解剖実験・観察することにより、形態、生態に関する知識を習得する。	2学期期末考査は、海藻類、貝類、海藻類の採集・観察、頭足類の特徴、イカ類の各部測定、解剖実験までとする。	第2学期期末考査
【課題・提出物等】 1 アワビ類、サザエ、バイ類の解剖実験のレポートを期末試験までに提出する。 2 授業中に作成したノートを学年末考査までに提出する。				
【第2学期の評価方法】 定期試験 70%、出席状況 10%、ノート・レポート 10%、 学習態度（実習も含む） 10%				
第 3 学 期	ウ 甲殻類	1 甲殻類の概説（各部組織）について理解する。 クルマエビ類、コエビ類、イセエビ類、ザリガニ類、異尾類、短尾類、シャコ類、フジツボ類を比較しながら、その特徴を理解する。 クルマエビ類の各部測定、解剖実験・観察することにより、形態、生態に関する知識を習得する。 2 ガザミの各部測定、解剖実験・観察することにより、形態、生態に関する知識を習得する。 3 ウニ類の各部組織について理解し、解剖実験をすることによって、形態、生態についてより理解を深める。	3学期学年末考査は、甲殻類の概説、解剖実験、ウニ類の形態、解剖実験までとする。	第3学期末考査
	【課題・提出物等】 1 クルマエビ類、ガザミ、ウニ類の解剖実験のレポートを期末試験までに提出する。 2 授業中に作成したノートを学年末考査までに提出する。			
【第3学期の評価方法】 定期試験 70%、出席状況 10%、ノート・レポート 10%、 学習への参加状況（実習も含む） 10%				
【年間の学習状況の評価方法】 「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、および「知識・理解」の4つの観点から評価した1学期の成績、2学期の成績および3学期の成績を総合し、年間の学習成績とする。 ※「栽培漁業」当番実習の当番回数を満たさない生徒は、「海洋生物」の単位も出ないこととする。				

<p>確かな学力を身に付けるためのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腹足類（アワビ類，サザエ，バイ類），二枚貝類（アカガイ・サルボウガイ類，アコヤガイ類，ホタテガイ類，イガイ類，カキ類，シジミガイ類，アサリ類，ハマグリ類，ウバガイ・バカガイ類，フナクイムシ類），頭足類（コウイカ類，ヤリイカ類，スルメイカ類，タコ類），甲殻類（クルマエビ類，コエビ類，イセエビ類，ザリガニ類，異尾類，短尾類，シャコ類，フジツボ類），ウニ類，海藻類（紅藻植物，褐藻植物，緑藻植物，その他）の，それぞれについて形態，生理及び生態に関する知識を良く理解し，その後解剖・観察実験を行い，より理解を深めること。</li> <li>・解剖・観察実験に使う道具を大切に使用し，正しい解剖方法，使い方を習得すること。</li> </ul>
<p>授業を受けるに当たって守ってほしい事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式の授業が多いためノートを作成し，後から見直しができるようにすること。</li> <li>・実験実習では危険を伴うものもあるので教員の指示は良く聞いて，絶対に従うこと。</li> <li>・授業はチャイムと同時に始めるので，教材・教具の準備をし，着席して静かに待つこと。</li> <li>・欠席した場合は，欠席により欠如した部分のノートを級友から借りて写しておくこと。</li> </ul>

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
<p>関心・意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生物について関心を持ち，その知識・技術の習得に意欲的に取り組むとともに，栽培漁業に対する，実践的な態度を身に付けようとしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義，実験に対する参加態度</li> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・ワークシートおよびレポート</li> <li>・ノート</li> </ul>
<p>思考・判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生物について自ら思考を深め，その問題の解決に向け，適切に判断し，個性豊かに創意工夫する能力を身に付けているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・ワークシートおよびレポート</li> <li>・授業態度（授業中の発言等）</li> </ul>
<p>資料活用 の 技能・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生物に関する技術の習得や調査・研究などの実践活動について，それらを的確に表現し，水産生物の解剖技術を習得することができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・レポート</li> <li>・授業態度（授業中の発言等）</li> </ul>
<p>知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生物に関する知識・技術を身に付け，栽培漁業の意義を理解しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> </ul>

3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は座学中心の講義形式で，初めて聞く言葉などの難しい事項もでてくるが，水産生物を取り巻く環境の基礎的知識を確実なものにすることができる。</li> <li>・腹足類，二枚貝類，頭足類，甲殻類，海藻類，ウニ類の外部形態と生理について，それぞれの組織についての知識を深めることができる。</li> <li>・水産生物の解剖方法や器具の使用方法を身に付けることができる。</li> </ul>
--